

新潟民商

新潟民主商工会
新潟市沼垂西3丁目
電話 (243) 0141

20 年 11 月 16 日

経営対策部・青年部の合同企画

ビジネススキルアップセミナー・SWOT分析の内容を具体化

ビジネススキルアップセミナー SWOT分析

11月29日(日) 10:00~12:00

会場：東区プラザ 第2講座室
(東区下木戸1丁目4-1)

SWOT分析とは組織を「強み」「弱み」「機会」「脅威」の4つの軸から評価する手法。

自社のSWOTを第三者(他社)に見てもらい、交流を兼ねた経営分析をすることで自分では気づけなかった新たな発見が生まれるかもしれません。

Strengths	… 強み
Weakness	… 弱み
Opportunity	… 機会
Threat	… 脅威

11月29日(日)に開催する「ビジネススキルアップセミナー・SWOT分析」の打ち合わせのため、経営対策部と青年部の合同会議を行いました。

ビジネススキルアップセミナーは「経営に関する企画」として県連と県青協が主催する企画でしたが、今回は新潟民商単独での開催となります。

今回の内容は「SWOT分析」。参加人数に合わせてグループに分かれ、実際にSWOT分析を行います。自分で分析した結果を他社に見せ、第三者の視点から交流も兼ねて分析する取り組みです。

開催内容のほか、参加者の募り方も話し合わせ、全青協総会に向けての拡大行動も兼ねて訪問する予定です。また、商工新聞読者や会外の方も対象となっているので仲間を誘っての参加も可能です。

これまで民商と関わりの無かった方にも民商を知ってもらえる機会となります。

スキルアップセミナーは今回のSWOT分析だけで終わらせず、「経営関連に特化した企画」としてシリーズ化することとし、次回の企画も検討されています。

日程

- ・全商連青年協定期総会 11月22日(日)
- ・全商連共済会定期総会 11月23日(月)
- ・第3回常任理事会 11月30日(月)

仲間増やしで全商連総会の成功を 山ノ下支部会員・新聞目標超過達成!

山ノ下支部は、15日に行われる全商連総会に向けて商工新聞読者8名・会員4名を目標に奮闘してきました。今年には新型コロナウイルスの影響で、持続化給付金や家賃支援給付金の申請などの多くの相談が寄せられています。この間、東山ノ下支部、太平支部とも協力してコロナ対策の相談会を毎月開催してきました。この取り組みの中で、会員からの紹介や民商のチラシを見て入会が増えています。商工新聞読者は婦人部副部長の阿部富恵さんをはじめ、会員の周りへの声かけで増えました。入会が5名、商工新聞読者が8名となり会員は超過達成です。

山ノ下支部役員会では、来月に新入会員歓迎会を会員の店を会場に開催することを相談しています。コロナ禍で確定申告「くろうさん会」などを中止し交流する機会がありませんでしたが、久々に集まって目標の超過達成をみんなで祝う予定です。



石山支部も目標へ向け奮闘中です

石山支部でもこの間、支部役員をはじめ支部の総力をあげて仲間増やしに取り組んでいます。11月10日現在、読者16名(目標26名)を増やしました。伊藤隆支部長(鮮魚小売)をはじめ支部役員が知り合いの業者仲間に、稲村四郎治さん(屋根工事)は阿賀野市と五泉市の業者へ声掛けを行ない増やしています。

拡大推進委員長の細山俊夫副会長は他の支部への働きかけで精力的に訪問行動を行なっています。石山支部は全商連総会までにあと10名の商工新聞読者を増やし、目標達成して総会を迎えようと行動の計画を立てています。



お互いの健康を気遣いながら懇親深める 大形支部・共済会学習会を開催

大形支部は11月8日に、毎年恒例の共済会学習会&班支部活動学習会を開催。寺泊・きんばちの湯を会場に総勢19名が参加しました。

最初に長崎副支部長が「お互いの健康に気遣える活動を広げていこう」と挨拶。また来賓で参加した飯塚孝子市会議員は「巷では大統領選が話題だがコロナ対策の方が重要。きちんとした対策をとらせるためにも一緒にがんばりましょう」と挨拶しました。

学習会では前半に共済の制度について討論。「75歳以上でも加入できる?」「長寿祝い金は80歳でも出ないのか?」など活発な意見が出されました。そして後半は班支部の学習会。班支部活動の手引きの組織図を見ながら班の役割などについて深め合いました。

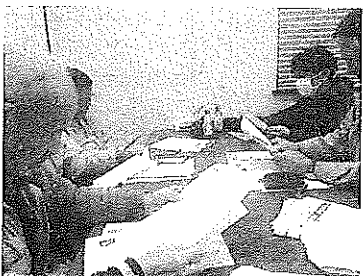
学習会後は小林副支部長の乾杯の音頭で懇親会。帰り道には「魚のアメ横」でお土産も購入し、充実した一日となりました。

班会の重要性をみんなで考える機会に 黒埼支部・共済会学習会を開催

黒埼支部では5日、会員の店「ふじの屋」にて共済会学習会を開催。高橋支部長(自動車販売)、丸山財政部長(建設業)の呼びかけに7名が参加しました。

最初に班支部活動の討論がされ、丸山さんが「班支部活動の手引きにあるように班会は重要だと思う。周りには困った人が多くいる。班会を開催することで要求を掘り起こすことができる。集まる努力をしていきましよう。」と班会の必要性を訴えました。

その後、共済会の制度を中心に石川共済理事(酒類販売)から共済Q&A資料を用いての制度等の説明。参加者は共済加入の必要性や重要性を確認し合っていました。引き続き懇親会に移り、黒埼支部らしいアットホームで暖かな雰囲気、皆さん楽しんでいました。



中小業者寄り添った制度の拡充を 新潟市の予算編成に要望を上げよう

来年度の新潟市の予算編成が明らかになってきています。この編成の中で新潟市は、長年新潟民商の運動で実現されてきた制度の縮小・廃止を求めていることがわかりました。

①次世代店舗支援事業(既存店魅力向上事業)

地域商店が魅力的な店舗にするために、改装や備品を購入するための資金に支援する制度。補助率は2/3で最大50万円の補助がされます。

この制度を一定の目的が果たされたと廃止する方向を打ち出しています。しかし商店街活性化という本来の目的は本当に果たされているでしょうか?

お隣の群馬県高崎市では、1回では足りない(新潟市は1回しか申請できない)と、2回目の申請にも対応し補助率も1/2と使いやすい制度になっています。新潟市もこの制度を廃止ではなく拡充すべきです。

②健康すまいリフォーム事業

既存住宅をリフォームした場合に補助率1/10の経費を補助する制度です。この間、国の交付金の関係もあり、子育てと介護に目的が限られ、補助上限も最大10万円(策定当時は40万円)に下げられてきました。新潟市はこの制度についても、事業の見直しを行い再来年度には休廃止する可能性を打ち出しています。昨年度は補助件数1051件と申請が増えているこの制度を廃止するなど言語道断です。

このようにコロナ禍で中小業者が苦しんでいる中、新潟市は財政難を理由に、営業とくらしに直結した制度を後退させようとしています。コロナ対策支援も不十分だとの声も上がっています。新潟市の雇用と景気を支えているのは中小業者です。中小業者を守り発展させる支援制度の拡充を求めていきましょう。

共済会 大腸がん検診(速報値) 受診者が増え、昨年受診者数を上回る

11月6日に大腸がん検診が実施されました。

643名の方が受診(昨年630名)され、コロナ禍で「自身の健康に気を配る」傾向が強まっています。

この結果は支部の共済系の協力を得て実現できた数字です。共済会の基本は「気配り、目配り、心配り」です。今後の活動にも力を入れて行きましょう。